

「おまえさー、さっき電話かけてただろ？ごめんごめん、気付かなかったよ。」と、笑いながら言った。かけた覚えはない。次々と、回りの人もあたかも友達であるかのように話し掛けてくる。私は彼等を知らないのだ。何がなんだかよくわからなくなってきた。そのまま流れに任せて、夜どうし街中を放浪した。

(土曜日) 早朝。始発電車に乗って家へ帰ってきた。カギを開け、ドアを開いた私は、思わず部屋番を確認した。チェーンがかかっているのだ。中に人の気配を感じた時、このうえない恐怖感を覚えた。「遅いよ、お姉ちゃん」。…私に妹はいない。自称妹と言うこの人物を私は知らない。が、こういうことにも慣れてきた。しょうがなく部屋へ入った。テレビがついている。ニュースだ。その瞬間に私の恐れていたことが。彼女はニュースを見て爆笑しているのだ。もう嫌だ!! 忘れてしまおうと、そのまま布団に潜り込んで眠った。

(日曜日) 何時間眠ったのだろうか。少し明るい時間だった。そこには妹という女性もいない。ああ、夢だったのかと安心した。安心したついでに友達に電話をかけてみようと、携帯電話の電話帳を開く。そこには知らない名前がずらりと並んでいる。頭の中が白くなった……そういえば、私って、誰だっけ？

月曜日。今日からまたいつもの1週間が始まると思いながら1限目に間に合うように7時半に家を出て学校に向かった。いつものことで道は渋滞していたが何とか間にあうことができた。講義を3つ受け、夕方には家に帰った。いつもと変わらない一日だった。

火曜日。今日もまた7時半に家を出たが道は渋滞していなく10分も早く学校に着いた。学校にいる人の人数もいくぶんいつもより少ないような気がした。いつものように講義を受け、午後7時には家に着いたが、夏だというのに着いたころには外は真っ暗だった。少し変だと思いつつも寝るころにはそのことは忘れていた。

水曜日。今日も同じように家を出たが、20分も早く学校に着いた。車の量が今日は休みだと思うくらい少なかった。今日は2つの講義を受ける予定だったが、2つ目が休講となり、昼前に家に帰ってきた。深夜のバイトがあるため昼食を食べた後少し寝ることにした。何時の間にか夜になっており夜11時から翌朝8時までのコンビニのバイトへ行った。

木曜日。朝9時ごろバイトから家に帰ってきた。今日は学校も休みなので寝ることにした。午後6時ごろに目が覚めたが、外は真っ暗になっていた。これはおかしいと思い、このころから世の中の変化に気づき始めた。

金曜日。世の中がおかしいと思いつつも学校へ向かった。今日は車を数えるほどしか見らず、今まで最高の早さで学校に着いた。学校にも数えるほどの人しかいなかった。他の人は世の中の変化で学校どころではないと考えているのだろう。自分も来なければよかったと思った。今日も日が暮れるのが早くなっていた。それに気温も低くなり夏なのに長袖を着るようになっていた。

土曜日。朝10時くらいに起きたが、まだ薄暗かった。そして長袖でも寒いくらいの気温になっていた。一日で日が当たったのは4時間くらいだった。これは日本だけでなく他の国も同じようだった。

日曜日。今日は朝からずっと真っ暗。電気も使えなく何も見えない日となった。太陽が消えてしまったのだ。気温も氷点下となり、生物が全滅し世界は破壊されたのであった。

月曜日 いつもどおりの朝をむかえた。目覚めのコーヒーを口にふくみ、新聞に目をとおしていた。しかしながらやけにかわった薬の広告が多いのが目につく。ムダ毛が脱毛することなく処理できる薬品だの、脂肪をへらすためのスリム効果筋肉増強剤だのであった。その日はとくに不思議に思うわけでなく何気に一日がすぎた。

火曜日 今日もいつもどおりの朝だった。テレビをつけて見ていると変なニュースがおおい 女性のすもう力士誕生！ だの ニューハーフがミス日本に選ばれる などが報じられていた。男が女よりも美しく、女が男よりも美しい時代というのか、そんなニュースを見ながら一人苦笑していた。

水曜日 いつもどおりに朝おきたがコーヒーがきれていたの買いにいこうとした。私はびっくりした。そのコーヒー缶に 飲みすぎると危険！ 本当に眠れなくなります と表示されていた。他の商品にも注意書きがおおい。普通の食品にも薬が服用されているというのか。なんだか怖くなってきて家にかえりその日は昏睡した。

木曜日 普段どおりにおきたが街は異様に静けさを感じた。とりあえず街にでてみようと思いきい歩いた。なぜか人の視線が気になる それはなぜかわからなかった。しかし私は気付いてみてあっけにとられた。女が黒くたくましく、男が白くひよわいかんじだ。これが流行なのだろうか。ギャルやフェミ男といった現代のスタイルにあてはめようともいきすぎている。自分一人がついていっていないのか自問自答していた。夢だと信じたく帰りまた眠りについた。

金曜日 ほとんど眠れず友達の家に行った。親友の佐々木君の家に行った。佐々木君は不治の病に犯されていた。髪はぬけ色白でやせ細っていた。この時 環境のせいでホルモンが犯されているのだという事に気付いた。次は自分がそうなるのか不安で震えてきた。もう手遅れなのか。何を信じていいかわからなく途方にくれるしかなかった。

土曜日 結局この日も眠れなかった。そして全てが怖く食事もこの三日間とっていないみんながおかしい。もう男も女もない。どうすればいいのか。外にもでたくない。このままでは死んでしまう。一人とり残されるくらいならみんなと同じ方がいいと考えひたすら食事をとった。そしていつの間にか眠ってしまった。

日曜日 私は目覚めた。しかし鏡で自分をみても何も変わっていなかった。なぜ自分だけが私は狂ったように食べた。そしてしばらく気を失った。ふと目を覚ますと自分の姿は変わり果てていた。どうやらいきすぎて退化してしまった。もう形もなかった。そして自分の存在を失った。

月曜日。

何気なく始まった一週間。
戦いの一週間で、また始まった。
絶対追いついてやる！

火曜日。

今日こそ追いついてやる！
ボクはテレビをちらりと垣間見た。
野球中継が放送されていた。
知らない人がたくさん応援している映像が流れていた。
知らない人の顔を思い浮かべることは難しい。
こんな細かいところまで...。
なかなかやるな。

水曜日。

朝がきた。
ベッドの中で何気なく目を開ける。
しまった！
そう思ったときにはもう遅い。
そうして、また、一日が始まった。

木曜日。

ぶるるる...ぶるるる...
電話のベルが鳴った。
すばやく駆け寄り、電話に出る。
「もしもし...」
相手は学校の友達だった。
何気ない、くだらない話を繰り返し、話を終え、切ろうとした。
!!
がすっともう一度受話器を持ち上げ、叫んだ。
「もしもし...！」
「なんだよ～、でかい声出して」
友達は怒っていた。
また、追いつけなかった。

金曜日。

学校へ向かう。
満員電車に乗る。
正面を向いていても、背後に誰かの存在が感じられる。
振り向くと、そこには見知らぬ誰かが人に押しつぶされていた。
右を見ても、人がいる。

左を見ても、人がいる。
そして、存在も感じられる。
追いつくことは無理なのか？

土曜日。

今日、学校は休みだ。
一日中ごろごろしていよう。
部屋で何かをしながらも、ちらりちらちと辺りを見回す。
いつもと変わらない、自分の部屋が広がっている。
不意に振り向いてもみる。
しかし、いつもと変わらない、自分の部屋が広がっている。

日曜日。

また一週間が終わってしまう。
どうして追いつけないんだ。
絶対に追いついて、いや、先回りしてやる！
!!
いいことを思いついたぞ！
そうだ、こうすればきっと追いつける！
我ながら名案だ！
そして、実行してみ……

今日は朝から良い天気、まさにテニス日和。食事の後片付けも早々と終わり、洗濯物も外に干し、気分は爽快。大学生の息子は親の影響か今朝も早くから出かけ、テニス同好会のコートとり。夫は日曜に仕事場に泊まるといったきり何も連絡して来ない仕事人間。壁を通して姑の咳ばらいが聞こえる。毎日毎日ごろごろしているだけではと、十年休んでいたソフトテニスを始めたところ。所属クラブの練習は月曜と木曜の週二回。隣に多少は気を使いながら楽しんでいる。テニスコートへは自転車で5、6分。テニスの腕は数度の練習で以前の調子に戻っている。上達は望めないが、白髪が隠せなくなった同じ年頃の主婦5、6人でのゲ-ムに笑いもこぼれる。汗を流せばいやな事も忘れ、毎日の家事も続けられるというものだ。

コートに11時に着くと、何時もはまだメンバ-は誰も来ていないはずなのに15人程でゲ-ムを始めているではないか。金網の外から見ると若い女性もいる、そのうえコ-チらしき男性もいる。何時も遅刻しない私が断りも無く遅刻するのはおかしいと皆が駆け寄ってきた。よくよく皆の顔を見ると岩手にいた時のメンバ-だ。ゲ-ムを2時間楽しんでお昼をコ-トの近くの中華屋ですませ、自転車を走らせているとランドセルを背負った小学1年生の息子にであった。

今週末に盛岡でテニスのクラブ対抗試合があるので、火曜日の今日も練習に朝から頑張ってお出かけた。家に帰ると下宿のおばさんのごはんがまっていた。今日はいつもとは違ってとても美味しい。

大学へはいつもはスクールバスでいくのだが、いつまで待ってもバスがこない。電車が来て乗ると学校のまえで全員降ろされた。教室の中には女子しかいないはずなのに、男子もいるではないか。校庭に出てみると道の向こうには長良川が流れている。そうだ今日は高校卒業アルバムにのせるというので、場所を長良川の河原にしたのだ。そうだ今日は水曜日だったのだ。

いつものように吉永小百合の朝のラジオドラマを8時15分まで聴いてでかけると、私の前を中学の先生たちが列をなして歩いている。これで今日も滑り込みセ-フと思いきや皆はランドセルを背負ってかえりの挨拶をしている。台風が近づいているので、今日は高学年のお兄さんお姉さんと一緒に下校するということだ。そういえば担任の先生は小一の時の浅野先生だった。今日木曜日は写生大会だったのに残念だった。家に帰ると両親と姉たちが食事を待っていた。夜9時頃には皆寝てしまった。

金曜日の朝起るといつものようにお腹が痛くなったががまんして学校にいくと、講堂で遊戯会をしているではありませんか。幼稚園の先生が私をいまかいまかと待っていたらしい。一年の半分ほどしかいかない私なのに。練習も少ししかしていないのに、皆の手を引いて踊る姿を見て母は、感激しているのです。家に帰ると周りにはいっぱい雪が積もっており、家の中では、母がスト-ブに石炭をくべています。スト-ブの火を見ているといつのまにか眠ってしまいうぎかいです。

今日は朝から近所のお友達と遊びました。土曜日なのに姉と兄はまだ小学校から帰ってきません。きっと姉はずらんでもとりながら道草をしているのでしょう。空を見上げるとトンビがとんでいました。

日曜日に父に連れられ父の仕事場に遊びに行きました。まだ小さいが一人で家に帰られる距離なので仕事する父と別れ、家までの一本道を帰りました。知っているはずの道が周りには白樺の木も無く、どんどん細く何か暗い道になり、温かな湖のような所に行き着いてしまった。大きな声をだしましたが返事は無く、ドクドクという音が聞こえ、遠くでいて近くのようなそんな所で母の音がする。私の体は丸く小さく暗い中、その母の声もいつのまにか聞こえなくなり、静寂の中にいくつものいくつもの息遣いだけがする。

ワアアア - - - - - 。

死にたくなつた地球

月曜日

地球 ... お月さん、長いつきあいだから力を貸してよ!

月 気持はわかるけど、申し訳ない。兎さんのついたお餅で花まつりをするため時間がない。

火曜日

地球 ... 小惑星さんよ、力を貸してよ!

小惑星 一人では無理なので皆に連絡しようと思うけど、宇宙線による電波障害で電話が通じない。

水曜日

地球 ... 木星よ、兄貴の地球の言うことを聞いて、望みをかなえてくれ!

木星 ... 兄貴の言う通りにしたいのは山々なれど、子供(衛星)に人間が送り込んだ宇宙船とかいう八工を追い払うのに忙しい。

木曜日

地球 ... 親父さん、力を貸してくれ!

太陽 ... お前もいい年なのだから自分のことは自分で処理しろ。

金曜日

地球 ... ハレー彗星よ、お願い頼むよ!

ハレー ... お前の所へは最近行ったばかりだから、次に寄るとしてもかなり先のことになるよ。

土曜日

地球 ... 射手座よ、その弓で心臓を貫いてくれ!

射手座 ... 年のせいか、老眼で正確に当てる自信がない。

日曜日

地球 ... 創造主よ、あなたであればできるでしょ、お願い助けてください!

創造主 ... 宇宙という麦を粉にして、イースト菌を加えビッグパン(人間は耳が悪いのでビッグパンという)を作っている最中に小さな粉が何を言っているのか?

という言葉が終るか終らないうちに、宇宙怪獣が創造主の作った餌のビッグパンをあっという間に一呑みにしてしまいました。